



JARA NEWS

April 2017, No. 110

from
Japan Automotive Recyclers Alliance
www.jara.co.jp

Published by JARA Corporation
Tokyo Head Office: Shinawa Bldg. 1-2-2-7F,
Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo JAPAN 103-0027
Phone: +81 3 3548 3010 / Fax: +81 3 3231 4690

JARA 17年度方針 部品流通を拡大 5部活動けん引「次世代 会」立ち上げ

JARAグループ（今井雄治会長）は、2017年度の基本方針として「部品流通の拡大」を掲げた。グループ内流通を主軸としながらも、今後はリビルド部品や優良部品を含めた部品全体の流通拡大をグループ内外で取り組み売上向上を目指す。自動車リサイクル業界は使用済み自動車（ELV）の発生減を筆頭に厳しい状況が続く。同グループは来期も五つの部が中心となり例会運営や人材育成などに注力することで、グループ全体の発展と個社の持続的成長につなげていく。

10日に開催した「第3回JARAグループ総会」で17年度の事業方針を明らかにした。スローガンは「プラスONEチャレンジ」。今井会長は「これは現場に対するメッセージ。一日一点でも多く生産し、受注する。一日一件でも多く訪問する。工場内では移動を一步減らすなど具体的な行動を積み重ねることで、オーナーと社員が一丸となって成長していくことが重要」と強調した。

17年度は部品流通の拡大を目指し、ブロック部が例会運営、教育部が人材育成、総務広報部が情報発信、品質管理部と新設したシステム部が商品情報を担う。これに

CO2削減数値(JARAシステム)

リユースパーツ使用によるCO2削減効果参考値
平成29年2月

2,885t

※一般、中・大型含む車を修理する際、新品部品を使用して修理する場合に出るCO2排出量とリサイクル部品を使用して修理する場合のCO2排出量の差がCO2削減数値になります。

一般社団法人日本自動車リサイクル部品協議会と早稲田大学環境総合研究センターがLCA（ライフ・サイクル・アセスメント）の考え方にに基づき共同開発した「グリーンポイントシステム」より参照。

第3回JARAグループ総会



加え、新たに「次代会会」を立ち上げ、若手経営者や次期経営者候補らの育成を強化する。

ブロック部では、新たな取り組みとしてブロック単位の例会を売上単位に改める。同規模の会社が類似した課題を持っていることから、地域の垣根を越えた会員で課題を共有し、改善、成長に向けた例会を実施する。

教育部では、これまでの研修にプラスして技術的職能の向上に取り組む。外部研修機関とも連携しながら顧客に貢献できる人材を育成する方針だ。

総務広報部では、全国一斉清掃活動を継続するほか、昨年立ち上げたフェイスブックも活用することで自動車リサイクル部品の拡販、啓蒙活動を強化する。

品質管理部兼システム部では、スキャンツールを利用した商品化戦略を推進する。研修会も実施することで生産部品の付加価値向上につなげる考えだ。

次代会会の初代会長には高橋商会の高橋建作氏が就任した。2、3代目など経営者候補のつながりを全国で作り、見識を広げることを目的にしており、11月中旬に行われる全国合同例会の企画運営を担う。

◆グループ総会開催 16年度活動報告と17年度予算を承認

JARAグループ（今井雄治会長）は9日、東京都内のホテルで「第3回JARAグループ総会」を開催した。

会員総数75社のうち59社が出席。2016年度活動報告と決算報告、17年度の事業活動と予算案などを審議し、了承した。

会の冒頭、今井会長は「去年はシステム改善を含め、さまざまな展開によりプラス

JARAアカデミー



実績を確保することができた。ただ時代は厳しくなるばかり。その中でもお客様に貢献し生き残るために今年一年も走っていく」と挨拶した。

（日刊自動車新聞3月16日）

JARAアカデミーを開催

JARA（日本自動車リサイクラーズ・アライアンス、北島宗尚社長、東京都中央区）はこのほど、経営層を対象にした「JARAアカデミー」を開催した。先行き不透明な状況においても将来を見越した投資が行える力を養うことを目的に実施しており、各界から特別講師を招き、有識者の実体験や経験、現在の動向などを受講しながら課題解決の議論を行っている。

冒頭、北島社長は「これから勝ち残るには様々な戦略が必要だが、工場や経営、自動車リサイクルビジネスだけでいいのか、また、リサイクルビジネスはどこまで広がっていくのか、多くの方々からの忌憚らない情報を聞きながら戦略を立てていきたい」と挨拶した。

今年は今6回のカリキュラムが組まれている。第1回の今回は、JARA会長を務める高橋商会の高橋敏社長が「毎年の設備投資方法」について講演。高橋社長は設備投資について「いかに能率を上げ、生産力が高まる仕組みづくりをしていくか、次のステップにつなげるためにもよく考えなければいけない」と強調した。次回のアカデミーは今月の開催を予定している。管理職や次世代後継者、希望があれば、役職、所属部署を問わず受講可能となっている。

（日刊自動車新聞3月2日）

次世代自動車の販売実績と2030年目標

	2016年(実績)	2030年
従来車	65.15%	30~50%
次世代自動車	34.85%	50~70%
ハイブリッド車	30.76%	30~40%
電気自動車	0.37%	20~30%
プラグイン・ハイブリッド自動車	0.22%	
燃料電池車	0.02%	~3%
クリーンディーゼル車	3.46%	5~10%



各団体の取り組みを共有することで、業界が抱える課題解決につなげる考えだ

次世代車の2030年販売目標、HVは早くも前倒し達成

ハイブリッド乗用車の国内販売が国の2030年目標を前倒して達成したことが分かった。30年に新車販売(乗用車)の最低30%以上を目指していたが、16年実績は30.76%だった。一方で最低20%以上を目指す電気自動車(EV)、プラグイン・ハイブリッド車(PHV)はともに1%未満にとどまり、今後はこうした電動系エコカーをいかに普及させるかが課題となる。経済産業省は補助制度を新しくし、PHVの普及に弾みをつけたい考えだ。

昨年の販売実績をもとに経産省が販売構成比を算出した。ハイブリッド車は15年実績の22.2%から8ポイント以上上昇し、30年目標の下限に到達した。15年末に全面改良した「プリウス」を筆頭に、小型車「シエンタ」、ホンダ「フィット」のハイブリッド仕様、日産「ノート」などが販売を押し上げた。クリーンディーゼル車は15年の3.6%から3.46%と微減だが、エコカー減税上の免税扱いも2年の延長が決まり、30年目標(最低5%)へ向け順調に販売比率が高まりそうだ。

一方、EVとPHVは15年より0.1ポイントほど上昇したものの、依然として1%未満にとどまる。EVは改良を重ね航続距離が280キロメートル(日産リーフ)まで伸びたが車種が増えず、冬季に実質航続距離が短くなる課題も抱える。PHVは輸入車を中心に車種が増えたが、商品や走行特性に関する認知度が低く、量販を狙える車種も少ない。ただ、トヨタ自動車は「エコカーの大本命」(内山田竹志会長)と位置づけ「プリウスPHV」を皮切りに設定車種を広げる方針を示す。EVも

量販モデルで航続距離(JC08モード値)400キロメートル超が視野に入りつつあり、電動系エコカーをめぐる潮目が変わりつつある。

経産省としては、補助制度を5月から変更する一方で、マンションなどの集合住宅にEV用急速充電器を広める手立てを検討したり、企業と通勤者ともに利点が見込める「PHV職場充電」のガイドラインをつくるなどして今後も電動系エコカーの普及を後押しする考え。

(日刊自動車新聞3月15日)

連載「第3回 自動車リサイクル・サミット」
苦境に挑む
~各団体の取り組み~

使用済み自動車の減少や仕入れ価格の高止まり、素材相場の低迷、部品輸送費の高騰など、リサイクル業界を取り巻く環境が厳しさを増す中で、各団体はどのような苦境を乗り越えようとしているのだろうか。フォーカスポイントは様々だが、団体首脳の発言からは事業継続と拡大に向けた強い思いが感じられる。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合はスケールメリットを活用する。「例えば海外向けの共同コンテナ。地区のメンバーが共同コンテナを海外に輸出している」(佐藤幸雄理事長)状況だ。今後は素材回収スキームの構築を進めていくという。

素材関連では東日本自動車解体処理協同組合が「数量を問わず同一単価で買ってもらうように問屋と交渉している」(坪千代志代表理事)。

システムオートパーツは「輸入車に伸びしろがある」(土居英幸社長)と見ている。ただ「苦手意識から取り組めていない状況が実情で、今後は情報を共有し販売への自信を付けていく」考えだ。

人材育成を強化する団体もある。ビッグウェーブの服部厚司社長は「顧客満足度に加え従業員満足度をいかに高めるかが重要になる。社員が満足して仕事ができる体制を整える」ことの必要性を説く。トータルカーリサイクルグループは「グループの存在意義を追求するほか協会と連携し人材交流を行っている」(石上剛副会長)という。また、日本パーツ協会の早川一三会長は「リサイクル業界の優秀な人材を逃さぬ

よう教育を強化し、魅力ある業界にしないといけない」と強調する。

テクルスネットワークはシステム活用を進める。部品売上の拡大が入庫減への最大の対応策になるとして「1つのネットワークだけではなくネットオークションなどとの連携にも取り組む」(針ヶ谷昌之社長)方針だ。

業務改善の必要性を説くのは部友会の鳩村昭二郎代表理事とJARAの北島宗尚社長。鳩村代表理事は「モノも人材も少ないというが、その前に仕事の流れを見直したらどうか。無駄が多い部分の見直しなど勉強会で考える」と意気込む。北島社長は「作業工数を減らす観点も大事。システムの自動化や見える化の推進、タブレットの活用など現状から何が改善できるかに取り組んでいる」という。

ARNが手がけるのはコスト削減。岡田誉伯代表理事は「これまで社外新品は自社で梱包、発送してきたが、今は運送会社に任せるなど様々な形でコスト削減を行っている」と強調する。

次世代自動車に焦点を当てるのはエス・エス・ジーだ。工藤浩司取締役は「電気自動車や燃料電池車など次世代車両の部品確認、点検方法や流通の確立を考えている」という。日本トラックリファインパーツ協会は「トラックは純正、優良、リビルト、中古部品という段階がある。この流れの中で中古部品の位置付けを物流業界に理解してもらわないといけない」(宮本眞希代表理事)と指摘する。

日本自動車リサイクル部品協議会は他団体との連携を密にしていく。「会員の要望に応えられていない部分もある。日本ELVリサイクル機構とも手を組んでやっていく」(栗原裕之代表理事)方針だ。

日本ELVリサイクル機構の酒井康雄代表理事は「次世代技術への対応や中長期的なビジネス視点など個社では取り組みづらいところを機構として取り組むべき」と考えている。同時に「業界窓口の観点からは業界内だけで声を上げるだけでは物事は進まない」として、「メーカーや部品、素材も含め大きな枠組みの中でリサイクルをどう考えるのかなどを発信する必要がある」と指摘する。

一方、RUMアライアンスの近藤典彦代表理事は意識改革の必要性を訴える。「相場が悪いからどうするではなく、考え方を環境問題の解決に変えていけば新しい方向性が見えてくる」と強調する。

(日刊自動車新聞2月16日)

KOBELCO

We Save You Fuel
Achieving a Low-Carbon Society

コベルコが提案する 新しい考え方

マルチ解体機

使用済み自動車の解体以外にも廃家電などの金属製機器の解体およびさまざまな複合廃棄物の解体・分別作業が可能です。

自動車解体機

使用済み自動車に含まれる素材の分別作業がスピーディーに行えて希少金属資源の回収が可能です。



SK135SRD



SK210D

コベルコ建機株式会社
www.kobelco-kenki.co.jp/

For Japan

新构想源于神钢

多功能拆除机

不仅可以拆除不再使用的汽车，还可以拆除废家电等金属制机器以及各种复合废弃物品的拆除、分类作业。

汽车拆除机

可快速进行报废汽车内素材的分类作业，能够回收稀金属资源。

SK210D



SK210D



成都神钢工程机械(集团)有限公司
www.kobelco-jianji.com/

For China

新构想源于神钢

多功能拆除机

不仅可以拆除不再使用的汽车，还可以拆除废家电等金属制机器，以及进行各种复合废弃物品的拆除、分类作业。

汽车拆除机

可快速进行报废汽车内部素材的分类作业，得以回收稀有金属资源。

SK200



SK200



FAIR FRIEND ENTERPRISE CO.,LTD.
www.ffg-tw.com/

For Taiwan

새로운 발상은 KOBELCO에서

멀티 해체기

용도 폐기된 자동차의 해체 외에도 폐가전제품 등 금속제 기기의 해체 및 다양한 복합 폐기물의 해체·분리작업이 가능합니다.



SK135SR

(주)삼정건설기계
www.samjung-kenki.co.kr/

For Korea

New ideas come from KOBELCO

Multi-Dismantling Machine

In addition to dismantling end-of-life vehicles, Multi-Dismantling Machine can break down various metal products and equipment such as used household appliances and can separate and sort various composite material wastes.



SK210D

KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY U.S.A. INC.
www.kobelco-usa.com/

For North America

New ideas come from KOBELCO

Multi-Dismantling Machine

In addition to dismantling end-of-life vehicles, Multi-Dismantling Machine can break down various metal products and equipment such as used household appliances and can separate and sort various composite material wastes.



SK135SRD

KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY AUSTRALIA PTY LTD
www.kobelco.com.au/

For Australia

New ideas come from KOBELCO

Multi-Dismantling Machine

In addition to dismantling end-of-life vehicles, Multi-Dismantling Machine can break down various metal products and equipment such as used household appliances and can separate and sort various composite material wastes.

Car-Dismantling Machine

Car-Dismantling Machine efficiently separates and sorts raw materials in end-of-life vehicles and is able to recover rare earth metals.

SK210D



SK210D



KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY EUROPE B.V.
www.kobelco-europe.com/

For Europe